



第2回たかしま市民まつり 8月30日(土) ※荒天の場合は8月31日に順延 (一部内容変更あり) 今津総合運動公園内(屋外特設ステージ)

- 10:30~ ●オープニングセレモニー
- 11:00~ ●日本一の魚つかみ大会
- 12:00~ ●BBCびわ湖放送
「ときめき滋賀's」(生中継)
- 15:00~ ●大声コンテスト
●スペシャルゲスト登場
- 16:00~ ●セカンドセレモニー
●日本一のエコ風船飛ばし
●市民発表会
- 18:00~ ●富くじ当選番号発表
- 19:30~ ●星空コンサート(サニサイ)
- 20:30~ ●大花火大会(西日本初三尺玉打ち上げ)

「高島市こそすばらしい」「高島市こそ日本一」。そう感じていただけるまつりになるよう実行委員一同全力を尽くします。

8月30日(土)は、たくさんの方の皆さんの、とりわけあなた様のお越しを、心からお待ちしています。

〒243-0292 高島市商工会内
TEL 076-5500

「市民の心をひとつにする事業を実現しよう」と「第1回たかしま市民まつり」の開催を決めたのです。

ひとつにする!!
と言ってもそんな簡単にできる
と思っただけではありません。

初めて高島市内統一の事業をするのですから、わからないことばかりで、毎週夜遅くまで議論をしました。協賛金集めでは、実行委員会(執行)側の配慮が足りなかったという反省もしました。色々な団体に参画していただくために

は、もっと早くから計画を進めて行かなければならない事も学びました。そんな悪戦苦闘をしながらも「市民の心をひとつにする事業をする!」という思いを貫いた結果、市内の企業様の温かいご支援、沢山の皆様をいただくことができました。当日は、私たちが想像していた以上に多くの方がご来場くださいました。その一方で、私たちの思慮の浅さから、会場までお越しいただけなかった方々や周辺の自治会などには大変ご迷惑をおかけし申し訳なく思っております。ただ、私たちの励みとなったのは、「来年も」という

声が多かったことでした。

と
きが経つのは早いものです。

昨年、今年初めに立ち上げた「第2回たかしま市民まつり」実行委員会も、会議を重ねること十数回。今年は、同志が増えましたので、会議も楽しくやっています。それと、驚いたことは、高島市には、元気で活発な団体が沢山あること、ボランティア精神旺盛な方々や学生が多く居られることです。

6つの地域(町村)が「ひとつ

第2回たかしま市民まつりは、次代を担う青少年たちや各種団体がともに汗をかくことで「絆」を深め、そして、このまつりを通して、市民の皆さんと「心がひとつ」になれば、より明るく、豊かで、活気のある高島市になると確信しています。

つ
ながらから「絆」
づくりへをテーマ
に取り組んで
います。



第1回たかしま市民まつり実行委員のメンバー

「真っ直ぐ伸びた並木道は、日本の街路樹百景にも選ばれているマキノのメタセコイアの並木道とそっくりです。また、支笏湖の船着場から見る風景は、今津の汽船乗り場からの景色とよく似ていますし、安曇川の泰山寺はまさに北海道の田園風景そのものです。新旭の針江の川端など、ここでは

当たり前のように、全国でも取り上げられ、注目されています。朽木や高島の山々だとして「下トロ」が暮らしているかのように、神秘に満ちています。この地では、都会とは違って、「きゃんせ」や「ゆっくりしゃんせ」という言葉がよく聞かれ、お互いさまが日常にあり、温かさに溢れています。

私たちが想うこと

昨年初め、商工会青年部と青年会議所、そして、いくつかの団体とで、市民が主体的に社会参画できる「市民の日」というものの可能性について話し合いました。その時、「まちづくり」に対する考え方や価値観がこんなに違うのかと感じさせられた事を覚えています。しかし、同世代の若者が、高島市という新たな舞台に「新しい風」を吹かせようと志を同じく

心
の底からこのま
ちが素敵だなく
と思えます。

先日、研修で北海道に行く機会がありました。千歳空港に着陸するまでの機内から見た北海道の広大さは、それはもう「でっかいどう」という表現そのままです。しかし、この景色どこか見たことない…?

こんな素晴らしいの地域が「高島市」としてひとつになって3年目を迎えた時の事です。

は
じめての試みで
した。別々の組織
が志を共にし
事業に取り組ん
だのは。

「日本一」の高島市に

第2回たかしま市民まつり

地域や年齢、組織の枠を超えて、共に高島市を活気づけようと、そして、「高島の魅力」として市内外にアピールしようと、高島市商工会青年部と(社)高島青年会議所が中心となって始まった「たかしま市民まつり」。今年も夏休み最後の土曜日に開催されます。

さまざまなお思いが詰まった「第2回たかしま市民まつり」の取り組みについて、実行委員長の青谷啓司さんに伺いました。(商工観光課)